

令和5年度

**荒尾市の教育に関する事務の管理及び
執行の状況に関する令和4年度事業
点検・評価報告書**

令和6年3月

荒尾市教育委員会

**「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」の
点検・評価について**

1. 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、荒尾市教育委員会がその権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価を行い、その結果に関する報告書を公表し、市民に信頼される効率的・効果的な教育行政の推進を目的とする。

2. 方法及び基準

(1) 「荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価実施要綱」に基づき、事業ごとに「必要性」「効率性」「目標達成度」について基本評価を行い、これをもとに今後の方向性として総合評価を行う。

(2) 評価基準

①基本評価（必要性・効率性・目標達成度）の基準

評価項目	評 価		評価の視点
必 要 性	A	市民等のニーズが高く必要な事業である	○市民や対象事業者等にとって必要な事業か ※目的の妥当性、市民のニーズ ※他に類似の事業はないか
	B	法令等で定められ、またはある程度ニーズがあり必要性が高い	
	C	市民等のニーズはあるが、実状に適應しなくなっている部分がある	
	D	市民等のニーズや実状に全く適應しておらず不要な事業である	
効 率 性	A	実施手法は適切で、見直す必要はない	○事業実施の手法は適切か ※事業費に見合った成果が得られているか ※類似の事業を実施している他の自治体等と比べてどうか
	B	実施手法は概ね適切である	
	C	実施手法は概ね適切であるが、一部見直しが必要である	
	D	実施手法を大幅に見直す必要がある	
目 標 達 成 度	A	十分達成できた	○計画及び目的通りに目標を達成できたか
	B	概ね達成できた	
	C	やや不十分であった	
	D	不十分であった	

②総合評価（今後の方向性）の基準

総合評価	評 価	
	A（拡 充）	十分な事業水準にあり、かつ必要度も高く、事業の拡充が必要
	B（継 続）	一定の事業水準にあり、今後も効率化を図りつつ、現在の事業水準を維持する
	C（見直し）	事業の必要性はあるが、その手法・執行体制等の見直しが必要
	D（完 了）	事業が完了
	E（廃 止）	事業を廃止

3. 対象事業

教育委員会の権限に属する予算事業を点検及び評価の対象とする。

荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価 対象事業一覧

No.	事業名	基本方針No.	基本的施策	重点施策	担当課
1	語学指導外国青年招致事業費	1	1-2未来を拓く力の育成		教育振興課
2	小学校・中学校ICT環境整備事業費	1	1-2未来を拓く力の育成	○	教育振興課
3	荒尾市就学援助事業費	2	2-3学びと育ちの支援		教育振興課
4	学校給食費無償化事業費	2	2-3学びと育ちの支援		教育振興課
5	小学校・中学校施設長寿命化計画策定事業費	4	4-1教育環境の整備・充実	○	教育振興課
6	小学校・中学校施設長寿命化改修事業費	4	4-1教育環境の整備・充実	○	教育振興課
7	給食センター整備推進室事業費	4	4-1教育環境の整備・充実	○	教育振興課
8	新型コロナウイルス対策事業費(教育)	4	4-5感染症や自然災害等のリスクを踏まえた持続的学びの確保		教育振興課
9	授業改善アドバイザー事業費	1	1-1確かな学力の育成	○	学校教育課
10	英語教育充実事業費	1	1-1確かな学力の育成	○	学校教育課
11	子ども未来文庫整備事業費(小学校・中学校)	1	1-1確かな学力の育成		学校教育課
12	特別支援教育支援員事業費	2	2-1多様なニーズに対応した教育の推進		学校教育課
13	心の教室事業費	2	2-2教育相談及び教育支援体制の充実		学校教育課
14	小岱教室事業費	2	2-2教育相談及び教育支援体制の充実	○	学校教育課
15	中学校フリースクール事業費	2	2-2教育相談及び教育支援体制の充実	○	学校教育課
16	図書館管理費	3	3-1人生100年時代を見据えた生涯学習の実現	○	生涯学習課
17	あらお子どもスポーツ教室事業費	3	3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実		生涯学習課
18	荒尾市運動公園施設長寿命化計画事業費	3	3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実		生涯学習課
19	地域と学校の連携・協働体制構築事業費	4	4-4家庭、地域、学校の連携・協働の推進		生涯学習課
20	夏休み子ども学び塾事業費	4	4-4家庭、地域、学校の連携・協働の推進		生涯学習課

事業名		語学指導外国青年招致事業費					担当部署	教育振興課	
会計	一般会計	款	10教育費	項	01教育総務費	目	02事務局費	基本方針No.	1
予算額(円)		26,913,000		前年度決算額(円)		22,465,799		基本的施策	1-2未来を拓く力の育成
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)						
	25,890,896		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源		
			0	0	0	0	25,890,896		
※その他内訳:									
根拠法令等	学校教育法施行規則								
事業の目的	外国青年招致事業(JETプログラム)を活用し、本市における外国語教育の充実を図るとともに、青年交流による地域レベルでの国際交流の発展を図ることを通じて、本市と諸外国との相互理解を増進し、もって本市の国際化の促進に資することをその目的とする。								
事業の内容	ALT(外国語指導助手)は、主に市内の小中学校において、外国語科指導の補助、国際理解教育の補助、児童生徒の課外活動への参加及び協力、外国語教材作成の補助、外国語科担当教員に対する現職研修への補助などに従事する。								
事業費内訳	内訳						決算額(円)		
	基本報酬						19,011,596		
	共済費						2,919,996		
	費用弁償						20,600		
	消耗品費						11,000		
	通信運搬費・家電リサイクル料						93,445		
	火災保険料						33,050		
	家屋借上料						2,521,333		
	備品購入費						338,360		
	自治体国際化協会負担金						460,000		
	招致旅費負担金						358,822		
	JET傷害保険負担金						108,890		
	入国時健康診査負担金						13,804		
	合計						25,890,896		
事業の成果・実績	平成23年度から3人体制になって各中学校区に1人の配置が可能となり、平成30年度には新しく2名を迎え入れ、5人体制となり、小学校における英語教育の充実につながることができ、各学校への指導日数の増加及び学校の実情に応じた活用が可能となった。令和4年度においては令和3年度に退任した1名の後任を令和4年4月から任用することができ、従来の5人体制で事業を遂行することができた。英語スピーチコンテストの個別指導や英検受験に向けたヒアリングの指導などのきめ細かな指導が実現できたことに併せ、教員への発音指導を行うことにより授業力の強化等につながり、本市における外国語教育の更なる充実を図ることができた。ネイティブの発音を耳にすることができるリスニングの機会の充実だけでなく、学校生活においてもALTが多くの児童生徒と触れ合う機会が増えることにより、外国の文化や習慣等についても学ぶことができるなど、外国語教育及び国際理解教育の充実に寄与した。								
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B	
備考・特記事項									

事業名		小学校・中学校ICT環境整備事業費				担当部署	教育振興課					
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	基本方針No. 4				
予算額(円)		166,682,800		前年度決算額(円)	140,496,320		基本的施策	4-1教育環境の整備・充実				
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)									
	158,168,789		国庫支出金	0	県支出金	19,500,000	地方債	0	その他※	0	一般財源	138,668,789
			※その他内訳:									
根拠法令等	荒尾市教育ICT整備計画											
事業の目的	学習指導要領の改訂により、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」のある授業が求められており、タブレットや電子黒板等のICT機器は、思考を可視化し表現することや、学習内容の理解を深めたりする際に効果的であることからその整備を行う。											
事業の内容	GIGAスクール構想により整備したタブレットの整備・運用を始め、学校における校務支援等を含む、ICT環境整備の充実を図る。											
事業費内訳	内訳											決算額(円)
	一般消耗品費											449,790
	ライセンス購入費											2,585,275
	修繕費											1,810,930
	中学校用デジタル教科書											382,800
	通信運搬費(ローカルブレイクアウト方式接続利用料含む)											7,639,060
	ICT支援委託料											19,074,000
	校務支援システム構築委託料											9,469,000
	教育ICT環境整備及び運用管理業務委託料											72,650,600
	教育系閉域網ファイルサーバ保守委託料											224,400
	LANケーブル敷設委託料											1,999,800
	電子黒板等借上料											25,036,128
	備品購入費											16,270,100
	授業目的公衆送信補償金等管理協会負担金											576,906
合計											158,168,789	
事業の成果・実績	令和4年度は小中学校8校(10学級以上の学校)を対象にインターネットローカルブレイクアウト方式を整備した。帯域拡充を行ったことでクラウド型教材、WEB会議アプリケーション等を同時に使用しても遅延なく利用できるようになり、より高度なICTツールを活用できる授業環境を構築した。											
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B				
備考・特記事項	熊本県新型コロナウイルス感染症対応総合交付金該当事業 充当額: 19,500,000円											

事業名		荒尾市就学援助事業費				担当部署		教育振興課													
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	基本方針No.	2												
予算額(円)		58,835,000		前年度決算額(円)		49,108,744		基本的施策	2-3学びと育ちの支援												
決算額(円)		事業費		財源内訳(円)																	
				国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源													
		126,500	0	0	0	50,617,058															
※その他内訳:																					
根拠法令等		学校教育法、荒尾市就学援助要綱																			
事業の目的		経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学に係る費用の一部を援助し、義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。																			
事業の内容		本市においては、新入学児童生徒学用品費、学用品・通学用品費、校外活動費、通学費、修学旅行費、学校給食費、医療費及び卒業アルバム代等を支給している。 なお、平成30年度からは、次年度7月に行う新入学児童生徒学用品費の支給を入学準備金として、現年度の3月に希望者へ前倒し支給を行っている。 また、令和2年度からは、特別に新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、前年の収入による認定審査に加え、急激な家計状況の変化により収入の減少があった世帯を対象となるよう拡充している。																			
事業費内訳		<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要保護児童就学援助費(小学校)</td> <td>109,736</td> </tr> <tr> <td>準要保護児童就学援助費(小学校)</td> <td>25,668,845</td> </tr> <tr> <td>要保護児童就学援助費(中学校)</td> <td>145,124</td> </tr> <tr> <td>準要保護児童就学援助費(中学校)</td> <td>24,819,853</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>50,743,558</td> </tr> </tbody> </table>								内訳	決算額(円)	要保護児童就学援助費(小学校)	109,736	準要保護児童就学援助費(小学校)	25,668,845	要保護児童就学援助費(中学校)	145,124	準要保護児童就学援助費(中学校)	24,819,853	合計	50,743,558
内訳	決算額(円)																				
要保護児童就学援助費(小学校)	109,736																				
準要保護児童就学援助費(小学校)	25,668,845																				
要保護児童就学援助費(中学校)	145,124																				
準要保護児童就学援助費(中学校)	24,819,853																				
合計	50,743,558																				
事業の成果・実績		<p>支給額推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支給額(円)</td> <td>42,842,209</td> <td>43,537,998</td> <td>49,108,744</td> <td>50,743,558</td> </tr> </tbody> </table> <p>就学援助の支給を受けている児童生徒数(生活保護を含む。)は637人で、全校児童生徒数3,873人(令和4年5月1日現在)の約16%を占める。本事業は経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒の支援に役立っている。 なお、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響による対象世帯の認定はなかった。</p>									令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	支給額(円)	42,842,209	43,537,998	49,108,744	50,743,558		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度																	
支給額(円)	42,842,209	43,537,998	49,108,744	50,743,558																	
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B													
備考・特記事項	小学校振興費及び中学校振興費の中の就学援助に係る経費について抜粋して記載																				

事業名		学校給食費無償化事業費					担当部署	教育振興課																																																																																						
会計	一般会計	款	10教育費	項	05保健体育費	目	03学校給食費費	基本方針No.	2																																																																																					
予算額(円)		106,778,000		前年度決算額(円)		100,855,324		基本的施策	2-3学びと育ちの支援																																																																																					
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																																																																																											
	98,569,335	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	98,569,335																																																																																			
		※その他内訳:																																																																																												
根拠法令等	荒尾市市民で支える小学校給食費補助金交付要綱																																																																																													
事業の目的	将来を担う子供たちの成長を市民全体で支えることで、安心して子育てができるまちを目指し、子育て世代の経済的負担を軽減する。																																																																																													
事業の内容	小学校又は特別支援学校の小学部に在籍する児童の保護者で、荒尾市に住所を有し、当該児童と生計を一にしている保護者に対し、小学校給食費補助金を交付する。ただし、国又は地方公共団体の負担において給付がある場合はそれらを優先して措置する。また、市外の小学校に在籍する児童の保護者で、給食費の支払がある場合は補助金の交付を受けることができる。																																																																																													
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th colspan="2">決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">小学校給食費補助金</td> <td colspan="2">98,226,339</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個人申請分</td> <td colspan="2">342,996</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td colspan="2">98,569,335</td> </tr> </tbody> </table>							内訳		決算額(円)		小学校給食費補助金		98,226,339		個人申請分		342,996		合計		98,569,335																																																																								
内訳		決算額(円)																																																																																												
小学校給食費補助金		98,226,339																																																																																												
個人申請分		342,996																																																																																												
合計		98,569,335																																																																																												
事業の成果・実績	<p>給食費補助金実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>対象数(人)</th> <th>対象外数(人)</th> <th>個人申請(人)</th> <th>確定額(円)</th> <th>個人申請確定額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>荒尾第一小</td><td>394</td><td>43</td><td>-</td><td>17,053,838</td><td>-</td></tr> <tr><td>万田小</td><td>338</td><td>64</td><td>-</td><td>14,991,794</td><td>-</td></tr> <tr><td>平井小</td><td>127</td><td>31</td><td>-</td><td>5,846,096</td><td>-</td></tr> <tr><td>府本小</td><td>60</td><td>11</td><td>-</td><td>2,716,463</td><td>-</td></tr> <tr><td>八幡小</td><td>195</td><td>50</td><td>-</td><td>8,381,450</td><td>-</td></tr> <tr><td>有明小</td><td>185</td><td>26</td><td>-</td><td>7,470,298</td><td>-</td></tr> <tr><td>緑ヶ丘小</td><td>325</td><td>50</td><td>-</td><td>14,136,950</td><td>-</td></tr> <tr><td>中央小</td><td>470</td><td>74</td><td>-</td><td>20,528,833</td><td>-</td></tr> <tr><td>清里小</td><td>71</td><td>13</td><td>-</td><td>3,031,166</td><td>-</td></tr> <tr><td>桜山小</td><td>89</td><td>36</td><td>-</td><td>4,069,451</td><td>-</td></tr> <tr><td>支援学校</td><td>-</td><td>-</td><td>5</td><td>-</td><td>133,893</td></tr> <tr><td>個人</td><td>-</td><td>-</td><td>7</td><td>-</td><td>209,103</td></tr> <tr><td>総合計</td><td>2,254</td><td>398</td><td>12</td><td>98,226,339</td><td>342,996</td></tr> </tbody> </table>										学校名	対象数(人)	対象外数(人)	個人申請(人)	確定額(円)	個人申請確定額(円)	荒尾第一小	394	43	-	17,053,838	-	万田小	338	64	-	14,991,794	-	平井小	127	31	-	5,846,096	-	府本小	60	11	-	2,716,463	-	八幡小	195	50	-	8,381,450	-	有明小	185	26	-	7,470,298	-	緑ヶ丘小	325	50	-	14,136,950	-	中央小	470	74	-	20,528,833	-	清里小	71	13	-	3,031,166	-	桜山小	89	36	-	4,069,451	-	支援学校	-	-	5	-	133,893	個人	-	-	7	-	209,103	総合計	2,254	398	12	98,226,339	342,996
学校名	対象数(人)	対象外数(人)	個人申請(人)	確定額(円)	個人申請確定額(円)																																																																																									
荒尾第一小	394	43	-	17,053,838	-																																																																																									
万田小	338	64	-	14,991,794	-																																																																																									
平井小	127	31	-	5,846,096	-																																																																																									
府本小	60	11	-	2,716,463	-																																																																																									
八幡小	195	50	-	8,381,450	-																																																																																									
有明小	185	26	-	7,470,298	-																																																																																									
緑ヶ丘小	325	50	-	14,136,950	-																																																																																									
中央小	470	74	-	20,528,833	-																																																																																									
清里小	71	13	-	3,031,166	-																																																																																									
桜山小	89	36	-	4,069,451	-																																																																																									
支援学校	-	-	5	-	133,893																																																																																									
個人	-	-	7	-	209,103																																																																																									
総合計	2,254	398	12	98,226,339	342,996																																																																																									
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	B																																																																																						
備考・特記事項																																																																																														

事業名		小学校・中学校施設長寿命化計画策定事業費				担当部署	教育振興課									
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	01小学校管理費 01中学校管理費	基本方針No. 4								
予算額 (円)		8,179,000		前年度決算額 (円)	0		基本的施策	4-1教育環境の整備・充実								
決算額 (円)	事業費		財源内訳(円)													
	5,720,000		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源									
			0	0	0	0	5,720,000									
※その他内訳:																
根拠法令等	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ長寿命化基本計画 ・バリアフリー法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律) 															
事業の目的	<p>国の「学校施設バリアフリー化推進指針」に基づく令和7年度までの緊急整備目標を踏まえ、学校施設に関する市のバリアフリー化計画を策定し、取組の加速化を図る。あわせて、平成31年3月に策定した「荒尾市学校施設等長寿命化計画」を見直し、両計画を一体的に策定することで、学校施設等の維持管理の適正化・効率化を推進する。</p>															
事業の内容	<p>国が定めたバリアフリー化整備目標を達成するための計画を策定しつつ、個別施設計画の見直し業務を行い、これまでの進捗のフォローアップを行うとともに、改めて施設の老朽化状況を考慮した今後の長寿命化改修の実施スケジュールを計画する。</p>															
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校施設長寿命化計画策定委託料</td> <td>4,400,000</td> </tr> <tr> <td>中学校施設長寿命化計画策定委託料</td> <td>1,320,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,720,000</td> </tr> </tbody> </table>							内訳	決算額(円)	小学校施設長寿命化計画策定委託料	4,400,000	中学校施設長寿命化計画策定委託料	1,320,000	合計	5,720,000	
内訳	決算額(円)															
小学校施設長寿命化計画策定委託料	4,400,000															
中学校施設長寿命化計画策定委託料	1,320,000															
合計	5,720,000															
事業の成果・実績	<p>現行の「荒尾市学校施設等長寿命化計画」について、本計画の見直しをするとともに、本計画にバリアフリー計画を盛り込むため、本計画の更新を行った。令和5年度以降、バリアフリー化の設計・工事及び長寿命化改良の設計・工事をスピード感を持って進めていく。</p>															
評価	必要性	B	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	D								
備考・特記事項																

事業名		小学校・中学校施設長寿命化改修事業費				担当部署		教育振興課																						
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	01小学校管理費 01中学校管理費	基本方針No.	4																					
予算額 (円)		169,755,751		前年度決算額 (円)		5,665,000		基本的施策	4-1教育環境の整備・充実																					
決算額 (円)	事業費		財源内訳(円)																											
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源																							
	169,755,751		30,711,000	0	117,000,000	0	22,044,751																							
※その他内訳:																														
根拠法令等		荒尾市学校施設等長寿命化計画																												
事業の目的		学校施設の長寿命化を行うことによって、施設改修に係る費用等のコスト縮減や予算の平準化を図る。また、学習面・安全面等における学校が目指す姿の実現のための環境整備に努めることにより、教育環境の質的改善にも資する。																												
事業の内容		荒尾市内の小中学校について、安全性確保、機能向上、トータルコストの縮減・平準化等を図る観点から、荒尾市学校施設等長寿命化計画（平成30年度策定、令和4年度更新）に基づき、構造躯体の長寿命化、屋根・外壁等の外装材の改修、内部・設備の改修等を実施する。 令和4年度は、外壁の老朽化が著しく雨漏りも発生している清里小学校及び荒尾海陽中学校（北棟）について、外壁改修屋上防水工事を実施した。																												
事業費内訳		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">現年度予算分</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">海陽中外壁改修屋上防水工事費</td> <td>4,089,002</td> </tr> <tr> <td colspan="2">繰越明許費分</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">清里小外壁改修屋上防水工事費</td> <td>99,576,749</td> </tr> <tr> <td colspan="2">海陽中外壁改修屋上防水工事費</td> <td>66,090,000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>169,755,751</td> </tr> </tbody> </table>								内訳		決算額(円)	現年度予算分			海陽中外壁改修屋上防水工事費		4,089,002	繰越明許費分			清里小外壁改修屋上防水工事費		99,576,749	海陽中外壁改修屋上防水工事費		66,090,000	合計		169,755,751
内訳		決算額(円)																												
現年度予算分																														
海陽中外壁改修屋上防水工事費		4,089,002																												
繰越明許費分																														
清里小外壁改修屋上防水工事費		99,576,749																												
海陽中外壁改修屋上防水工事費		66,090,000																												
合計		169,755,751																												
事業の成果・実績		清里小学校と荒尾海陽中学校（北棟）について、外壁改修屋上防水工事を令和4年度中に完了した。 今後も荒尾市学校施設等長寿命化計画に基づき、優先順位の高い学校施設から順に、計画的かつ確実に改修を行っていく。																												
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																						
備考・特記事項																														

事業名		給食センター整備推進事業費					担当部署	教育振興課	
会計	一般会計	款	10教育費	項	05保健体育費	目	03学校給食費	基本方針No.	4
予算額(円)		1,568,356,000		前年度決算額(円)		1,326,891,318		基本的施策	4-1教育環境の整備・充実
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)						
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源		
	1,497,845,659		208,180,000	0	855,800,000	315,568,425	118,297,234		
※その他内訳：給食センター整備事業長洲町負担金									
根拠法令等	学校給食法								
事業の目的	学校給食は、成長期にある子供たちの心身の発達を養う上で重要な役割を担っており、学校教育活動の一環でもある。安心・安全な学校給食の提供のため、学校給食衛生管理基準に則った衛生水準、食育に関する教育環境、アレルギー対応室や効率的な施設整備を備えた新学校給食センターを建設する。								
事業の内容	荒尾市と長洲町は安心・安全でおいしい学校給食の提供を安定的に行うことを目的として、「新学校給食センター」の整備を共同で進めることに基本合意し、令和2年10月には、地方自治法第252条の2の2第1項の規定に基づく協議会、「荒尾市・長洲町学校給食センター協議会」を設置した。 令和4年9月の供用開始に向けて事業を進める。								
事業費内訳	内訳							決算額(円)	
	現年度予算分								
	・普通旅費							4,308	
	・一般消耗品費							263,678	
	・手数料(建築確認手数料)							575,300	
	・給食センターLPガス残液処理業務委託料							297,000	
	・給食センター残置物搬出処理業務委託料							294,052	
	・道路通行料(ETC使用料：水俣市へ)							4,820	
	・仮設ボイラー等借上料							7,068,000	
	・荒尾市・長洲町学校給食センター外構工事							68,260,961	
	・備品購入費							103,248,196	
	・給食配送車購入費							12,700,000	
	繰越明許費分								
	・建築工事監理業務委託							6,985,000	
	・荒尾市・長洲町学校給食センター建設工事							1,029,419,412	
	・学校給食センター厨房機器設置工事							212,516,810	
・荒尾市学校給食センター解体工事							56,208,122		
合計							1,497,845,659		
事業の成果・実績	荒尾市と長洲町は、学校給食に関する事務を共同して管理し、執行するため、令和2年10月、地方自治法第252条の2の2第1項の規定に基づく「荒尾市・長洲町学校給食センター協議会」を設置した。 令和2年度実施の基本設計・実施設計を基に、建築一式工事や厨房機器設置工事等を進めた。 基本構想・基本計画で示したとおり、新学校給食センターは令和4年9月に供用を開始した。								
評価	必要性	B	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	D	
備考・特記事項									

事業名		新型コロナウイルス対策事業費（教育）					担当部署	教育振興課														
会計	一般会計	款	10教育費	項	01教育総務費	目	02事務局費	基本方針No.	4													
予算額（円）		6,308,000		前年度決算額（円）		11,823,912		基本的施策	4-5感染症や自然災害等のリスクを踏まえた持続的学びの確保													
決算額（円）	事業費		財源内訳（円）																			
	2,617,582		国庫支出金	0	県支出金	648,000	地方債	0	その他※	0	一般財源	1,969,582										
			※その他内訳：																			
根拠法令等	新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針																					
事業の目的	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による教育委員会の感染症対策及び学校等の一斉臨時休業からの再開等に際し、基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」を導入するとともに、学習内容や活動内容を工夫しながら、可能な限り教育活動を継続し、子供の健やかな学びを保障する。																					
事業の内容	教育委員会事務局及び学校の新型コロナウイルス感染症対策となる「新しい生活様式」を踏まえ、まめに手洗い・手指消毒、咳エチケットの徹底、こまめな換気、身体的距離の確保、3密（密集、密接、密閉）の回避のため、パーティションの追加整備並びに各小中学校の購入要望に沿った衛生用品及び備品を購入した。																					
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th colspan="2">決算額（円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">一般消耗品費</td> <td colspan="2">2,617,582</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td colspan="2">2,617,582</td> </tr> </tbody> </table>								内訳		決算額（円）		一般消耗品費		2,617,582		合計		2,617,582			
	内訳		決算額（円）																			
一般消耗品費		2,617,582																				
合計		2,617,582																				
事業費内訳について、一般消耗品費は、パーティション、オートソープディスペンサー、消毒液等の衛生用品並びに学校からの要望に基づく児童生徒及び教職員のための簡易検査キットの購入費等となっている。																						
事業の成果・実績	【成果】 教育委員会事務局及び学校の教育活動において、令和3年度に引き続き「新しい生活様式」に基づき新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に努めた。また、各学校における感染予防対策として必要な消耗品を確認し、要望に沿ったものを購入することで、感染対策を講じながら教育活動を行うことができた。																					
	【実績】 各小中学校にパーティションを660台追加整備した。また、各小中学校からの要望に応じ、消毒液等の衛生用品といった感染予防対策に必要な消耗品調達のほか、行政検査の対象とならない児童生徒及び教職員等が使用できるよう、新型コロナウイルス感染症の簡易検査キットを配備した。																					
評価	必要性	B	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B														
備考・特記事項	熊本県新型コロナウイルス感染症対応総合交付金該当事業 充当額：648,000円																					

事業名		授業改善アドバイザー活用事業費					担当部署	学校教育課									
会計	一般会計	款	10教育費	項	01教育総務費	目	02事務局費	基本方針No.	1								
予算額(円)		805,000		前年度決算額(円)		650,000		基本的施策	1-1確かな学力の育成								
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)														
	600,000	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	600,000						
		※その他内訳:															
根拠法令等	特になし																
事業の目的	<p>子供たちの主体性の育成に向け、教師の授業力の向上を目指すことを目的とする。子供たちに新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を身に付けさせるため、子供たちが自ら問いの意識を持って学習に取り組み、自身又は学び合いを通して解決していく主体的な学習(授業)を展開し、その学び方を子供たちが体得することを目指す。そのための教師の授業改善に向けた指導助言を授業改善アドバイザーにより実施するものである。</p>																
事業の内容	<p>西留安雄氏(元東京都東村山市立小学校長。高知県教育委員会スーパーバイザー・高知県教育センター若年研修アドバイザーを経て、全国各地の授業改善・学力向上の指導に当たる。)に授業改善アドバイザーを依頼し、全4回延べ8日間の訪問指導を行う。内容は、授業改善アドバイザーに各学校1回ずつ授業(合計13回)を参観してもらい、授業改善アドバイザーの推奨する子供たちを主体とする授業スタイル(あらおベーシック)の理論や技術を各校の教諭等及び管理職等へ指導を行う。また、授業改善アドバイザーを講師として年度初めに荒尾市への新転入教職員(約80人)に対して「あらおベーシック」の研修会を実施する。授業改善アドバイザーの助言を通じて、これまでの事業による教師や子供たちの授業づくりに関するスキルの積上げに加え、新しく進化した授業スタイルなど最新の指導技術を多くの教師に身に付けさせ、授業改善を図り、児童生徒の学力向上を目指していく。</p>																
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">授業改善アドバイザー謝金</td> <td>600,000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>600,000</td> </tr> </tbody> </table>								内訳		決算額(円)	授業改善アドバイザー謝金		600,000	合計		600,000
内訳		決算額(円)															
授業改善アドバイザー謝金		600,000															
合計		600,000															
事業の成果・実績	<p>あらおベーシックの定着から進化型あらおベーシックへの進展を図った本事業5年目にして市内児童生徒の学力の状況としては、小学校では各種学力テストの正答率において熊本県や全国平均を上回る状況もあり、中学校では、県平均との差が縮まる傾向にある。また、県が実施している心のアンケートでは「学校が楽しい」「授業が分かる」割合が90%前後と高くなっている。しかし、一方では「学力の二極化」がみられ、今後も進化型あらおベーシックによる子どもたち全員参加、活躍する授業づくりを目指していくなかで学力の底上げを図る必要がある。そのためには進化型あらおベーシックの更なる推進を本事業による授業改善アドバイザー派遣指導により市内全小中学校での定着・充実させていく必要がある。</p>																
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B									
備考・特記事項																	

事業名		英語教育充実事業費				担当部署	学校教育課 教育振興課																																							
会計	一般会計	款	10教育費	項	01教育総務費	目	02事務局費	基本方針No. 1																																						
予算額(円)		4,709,000		前年度決算額(円)		4,008,288		基本的施策																																						
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																																											
	4,056,728		国庫支出金	0	県支出金	567,000	地方債	0	その他※	3,489,728	一般財源	0																																		
	※その他内訳： 荒尾市子ども未来基金繰入金 3,151,248円ほか																																													
根拠法令等		荒尾市教育振興基本計画																																												
事業の目的		<p>教員のスキルアップを図ることで本市小中学生の英語力向上を図る。 本市の学校における児童生徒の学力及び学びに対する意欲は、学年が上がるにつれて低下し、県平均と比較しても低い状況にある。特に英語については、苦手意識を持つ生徒が多く、成績も低迷している。今後、ますます社会のグローバル化が進展し、英語力の必要性が高まると考えられる。英語授業における教員の指導力向上とともに、学校教育活動を通じた英語の日常化を図り、本市の子供たちが、社会に出て通用する英語力を身に付けることができるようにする。</p>																																												
事業の内容		<p>英語教育に関わる小中学校の教員に3回の研修を実施する。授業研究会や小中学校での授業における成果、課題等を検討し、英語教育のスキルアップを図る。小中学校の連携を図り、系統的に学習を進め児童生徒への指導力向上を目指す。 市内中学校の1年生から3年生までを対象に実用英語技能検定(英検)の希望級の受験料を、荒尾子ども未来基金及び県からの補助金を活用して市が負担し、生徒全員が英検に取り組む体制を構築することで、日頃の英語学習意欲やコミュニケーション能力の向上のきっかけとする。 また、合否以上に、皆でそれぞれに合った目標に向けて努力することで、英語への関心を引き出し、学習意欲の向上を目指す。</p>																																												
事業費内訳		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th colspan="2">決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">一般消耗品</td> <td colspan="2">46,200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">備品購入費</td> <td colspan="2">26,928</td> </tr> <tr> <td colspan="2">英語検定手数料</td> <td colspan="2">3,983,600</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td colspan="2">4,056,728</td> </tr> </tbody> </table>											内訳		決算額(円)		一般消耗品		46,200		備品購入費		26,928		英語検定手数料		3,983,600		合計		4,056,728															
内訳		決算額(円)																																												
一般消耗品		46,200																																												
備品購入費		26,928																																												
英語検定手数料		3,983,600																																												
合計		4,056,728																																												
事業の成果・実績		<p>学校向けアンケートでは、英検に対する取組状況について、授業や朝自習の中で過去問や対策問題に取り組みせたり、ALTを活用した二次試験対策、放課後の学習会などの工夫が見られた。 今回の英検受験については、年3回の英検受験機会のうち、3年生は第2回の10月、1年生及び2年生は第3回の1月での受験とした。希望級を受験可能とし、在籍者のうち、中学1～3年生全ての学年で約9割以上の生徒が希望した。受験生の多くは、1年生は5級、2年生は4、5級、3年生は3、4級を受験した。受験の多かった3～5級の受験者数及び合格者数は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th colspan="2">3級</th> <th colspan="2">4級</th> <th colspan="2">5級</th> </tr> <tr> <th>受験者数(人)</th> <th>合格率(%)</th> <th>受験者数(人)</th> <th>合格率(%)</th> <th>受験者数(人)</th> <th>合格率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学1年生</td> <td>8</td> <td>50.0</td> <td>23</td> <td>56.5</td> <td>329</td> <td>67.8</td> </tr> <tr> <td>中学2年生</td> <td>39</td> <td>51.3</td> <td>235</td> <td>35.7</td> <td>43</td> <td>32.6</td> </tr> <tr> <td>中学3年生</td> <td>230</td> <td>37.8</td> <td>75</td> <td>40.0</td> <td>23</td> <td>39.1</td> </tr> </tbody> </table>											学年	3級		4級		5級		受験者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格率(%)	中学1年生	8	50.0	23	56.5	329	67.8	中学2年生	39	51.3	235	35.7	43	32.6	中学3年生	230	37.8	75	40.0	23	39.1
学年	3級		4級		5級																																									
	受験者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格率(%)																																								
中学1年生	8	50.0	23	56.5	329	67.8																																								
中学2年生	39	51.3	235	35.7	43	32.6																																								
中学3年生	230	37.8	75	40.0	23	39.1																																								
評価	必要性	B	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																																						
備考・特記事項																																														

事業名		子ども未来文庫整備事業費（小学校・中学校）				担当部署	学校教育課 教育振興課	
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	基本方針No. 1
予算額 (円)		2,600,000		前年度決算額 (円)		2,579,988		基本的施策 1-1確かな学力の育成
決算額 (円)	事業費		財源内訳（円）					
	2,594,152		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源	
			0	0	0	2,594,152	0	
※その他内訳： 荒尾子ども未来基金繰入金								
根拠法令等	特になし							
事業の目的	荒尾子ども未来基金を活用して学校図書の充実を図り、学校図書室の計画的な利用と読書活動を推進し、学力向上等につなげる。							
事業の内容	各学校が選定したオンリーワンの学校づくりにつながる図書及びNIE推進（新聞を教材として活用し、読解力、情報処理能力、表現力等を身に付け、学力向上を目指す教育）のための新聞を教育委員会で審査承認後に購入する。購入後は、各学校において、特設コーナーを設置することで、基金活用の意義を周知し、学校図書の充実及び児童生徒の読書意欲の向上を図る。							
事業費内訳	内訳						決算額（円）	
	小学校	図書購入費					1,862,377	
	小学校	一般消耗品費					134,250	
	中学校	図書購入費					549,980	
	中学校	一般消耗品費					47,545	
	合計						2,594,152	
事業の成果・実績	各小中学校で図書を選定して購入した。NIE推進のため、全小中学校が1紙以上の新聞購読を行った。							
	小学校分実績							
	校名	図書購入冊数	新聞購読紙数					
	荒尾第一小	126	1					
	万田小	163	1					
	平井小	98	1					
	府本小	185	1					
	八幡小	75	1					
	有明小	76	1					
	緑ヶ丘小	73	1					
	中央小	188	1					
	清里小	182	1					
	桜山小	112	2					
	合計	1,278	11					
	中学校分実績							
校名	図書購入冊数	新聞購読紙数						
海陽中	90	2						
三中	102	2						
四中	200	2						
合計	392	6						
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B
備考・特記事項								

事業名		特別支援教育支援員事業費				担当部署		学校教育課 教育振興課	
会計	一般会計	款	10教育費	項	02小学校費 03中学校費	目	02教育振興費	基本方針No.	2
予算額 (円)		86,787,192		前年度決算額 (円)		49,376,757		基本的施策	2-1多様なニーズに 対応した教育の推進
決算額 (円)		事業費 69,907,616		財源内訳 (円)					
				国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源	
		0	0	0	0	69,907,616			
※その他内訳:									
根拠法令等		教育基本法							
事業の目的		教育基本法の改正により、国において平成19年4月から障がいのある児童生徒の教育の充実を図るため、特別支援教育制度へ転換するとともに、小・中学校に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対して、適切な教育を行うことが明確に位置付けられた。それに伴い、特別支援学級設置数の増加や通級による指導の対象となる障害種別が増えたことにより、障がいのある児童生徒の受入機会が増加している。教師だけでは十分な支援が困難な状況であるため、各学校に「特別支援教育支援員」を配置し、特別な支援を要する児童生徒への個別の支援を行うとともに、通常学級に在籍する発達障がい疑われる児童生徒への対応を行う。							
事業の内容		小・中学校において障がいのある児童生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助を行ったり、発達障がいの児童生徒に対し、学習活動上のサポートを行う「特別支援教育支援員」を配置する。							
事業費内訳		内訳						決算額 (円)	
		小学校 基本報酬						36,430,984	
		小学校 時間外報酬						624,778	
		小学校 期末手当						6,341,529	
		小学校 共済組合負担金						1,416,234	
		小学校 健康労働保険料						5,637,271	
		小学校 費用弁償						1,032,640	
		小学校小計						51,483,436	
		中学校 基本報酬						12,691,751	
		中学校 時間外報酬						217,490	
		中学校 期末手当						2,314,866	
		中学校 共済組合負担金						510,258	
		中学校 健康労働保険料						2,225,995	
		中学校 費用弁償						463,820	
		中学校小計						18,424,180	
合計						69,907,616			
事業の成果・実績		実施状況							
				令和2年度	令和3年度	令和4年度			
		特別支援学級数(学級)(小,中)		38(29,9)	41(31,10)	42(29,13)			
		特別支援学級児童・生徒数(人)(小,中)		151(116,35)	186(139,47)	215(155,60)			
		特別支援教育支援員数(人)(小,中)		43(32,11)	43(31,12)	47(35,12)			
支援が必要な児童生徒への対応をできるようにするための研修会(年2回)を実施し、障がいへの理解や支援員の役割についての理解を深めることができた。担任の教師と情報交換及び共通理解を図り支援に当たることで効果的な支援となった。特別支援学級に通う児童生徒への支援はもとより、普通学級に在籍している学習障(LD)、注意欠如・多動性障害(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)などの発達障がいの児童生徒の学習支援を行うことで、落ち着いた学習環境づくりに貢献した。									
評価	必要性	A	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B	
備考・特記事項									

事業名		心の教室事業費				担当部署		学校教育課																																	
会計	一般会計	款	10教育費	項	03中学校費	目	02教育振興費	基本方針No.	2																																
予算額(円)		2,158,000		前年度決算額(円)		1,653,511		基本的施策	2-2教育相談及び教育支援体制の充実																																
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																																						
	1,689,633	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	1,689,633																														
		※その他内訳:																																							
根拠法令等	荒尾市心の教室相談員設置要綱																																								
事業の目的	様々な理由や要因により、不登校や別室登校等の状態にある生徒や、人間関係などの悩みを持つ児童生徒及びその保護者からの相談を受け、不安やストレス等を和らげることにより不登校、いじめ、問題行動等の未然防止及び早期解決を図る。																																								
事業の内容	現在、中学校では、教職員の多忙化が問題視されていることもあり、一人一人の生徒の多岐にわたる悩みを聴き取り、不安の解消につなげることが難しくなっている。また、不登校等について悩みを抱える保護者も存在しているため、その対応策として市内各中学校に1名ずつ(計3名)心の教室相談員を配置する。																																								
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本報酬</td> <td></td> <td>1,626,210</td> </tr> <tr> <td>健康労働保険料</td> <td></td> <td>3,823</td> </tr> <tr> <td>費用弁償</td> <td></td> <td>59,600</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>1,689,633</td> </tr> </tbody> </table>								内訳		決算額(円)	基本報酬		1,626,210	健康労働保険料		3,823	費用弁償		59,600	合計		1,689,633																		
内訳		決算額(円)																																							
基本報酬		1,626,210																																							
健康労働保険料		3,823																																							
費用弁償		59,600																																							
合計		1,689,633																																							
事業の成果・実績	<p>心の教室相談員 活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来所、電話相談、 家庭訪問の件数 (件)</td> <td>58</td> <td>104</td> <td>107</td> <td>119</td> <td>0</td> <td>134</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td colspan="2">計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>98</td> <td>96</td> <td>117</td> <td>124</td> <td>82</td> <td colspan="2">1,203</td> </tr> </tbody> </table> <p>※4月、1月、2月及び3月は三中と四中のみ 関係機関と連携を図り、不登校対策における学校の中核として取り組んだ。 心の教室相談員と学校教職員で連絡を密にし、情報共有を図ることで生徒の悩みを早期に発見し、様々な角度から生徒に対しての支援を行った。また、状況によっては関係機関とも連携し、福祉分野での支援につなげた。 また、心の教室相談員は保護者にとっても相談しやすい存在である。</p>									区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	来所、電話相談、 家庭訪問の件数 (件)	58	104	107	119	0	134	164		11月	12月	1月	2月	3月	計			98	96	117	124	82	1,203	
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月																																		
来所、電話相談、 家庭訪問の件数 (件)	58	104	107	119	0	134	164																																		
	11月	12月	1月	2月	3月	計																																			
	98	96	117	124	82	1,203																																			
評価	必要性	B	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B																																	
備考・特記事項																																									

事業名		小岱教室事業費					担当部署	学校教育課			
会計	一般会計	款	10教育費	項	03中学校費	目	02教育振興費	基本方針No.	2		
予算額(円)		3,725,960		前年度決算額(円)		3,288,528		基本的施策	2-2教育相談及び教育支援体制の充実		
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)								
	3,390,044	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	3,390,044
		※その他内訳:									
根拠法令等	荒尾市教育委員会適応指導教室設置要綱										
事業の目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰など、社会的自立のための指導及び支援を目的に、平成13年に小岱教室を設置した。										
事業の内容	小岱教室に適応指導教室指導員を配置し、不登校児童生徒の学校復帰など、社会的自立を目指し、適応指導、学習指導、教育相談等を行う。										
事業費内訳	内訳							決算額(円)			
	基本報酬							2,697,705			
	時間外報酬							161,961			
	期末手当							384,243			
	健康労働保険料							24,512			
	費用弁償							13,200			
	一般消耗品費							31,573			
	燃料費							20,988			
	小岱教室電話料							51,902			
	手数料							3,960			
	合計							3,390,044			
事業の成果・実績	小岱教室利用者数										
	区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
	利用者数(人)		11	12	12	12	12	13	12		
			11月	12月	1月	2月	3月	合計(延べ人数)			
			12	12	13	14	15	150			
	小岱教室での学習を通じて、学校への部分登校や学校行事に参加することができるようになった生徒も見られた。										
	学校と家庭との連携を深めることで、保護者に小岱教室での様子やチャレンジ登校の細かい計画を伝えることができるようになった。										
	3月には一旦退級とすることで、4月の新学年スタートを区切りに学級に復帰する生徒も見られ、不登校解消に大きな役割を果たしている。										
	評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	B	総合評価	B		
	備考・特記事項										

事業名		中学校フリースクール事業費				担当部署		学校教育課			
会計	一般会計	款	10教育費	項	03中学校費	目	02教育振興費	基本方針No.	2		
予算額(円)		15,878,000		前年度決算額(円)		5,266,664		基本的施策	2-2教育相談及び教育支援体制の充実		
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)								
	12,869,483	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	12,869,483
		※その他内訳:									
根拠法令等	荒尾市教育委員会適応指導教室設置要綱										
事業の目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰など、社会的自立のための指導及び支援を行う。										
事業の内容	令和2年度に荒尾第三中学校内に適応指導教室(ハートフルルーム)を設置し、適応指導教室指導員を配置し、不登校児童生徒の学校復帰など、社会的自立を目指し、適応指導、学習指導、教育相談等を行う。令和4年度から荒尾海陽中学校及び荒尾第四中学校もハートフルルームを設置した。										
事業費内訳	内訳							決算額(円)			
	基本報酬							7,373,114			
	時間外報酬							144,325			
	期末手当							1,075,941			
	共済組合負担金							314,766			
	健康労働保険料							1,261,813			
	費用弁償							333,320			
	一般消耗品費							37,362			
	燃料費							100,569			
	車両・物品等修繕費							13,200			
	電話利用料							175,729			
	保険料							15,476			
	車借上料							1,186,000			
	備品購入費							837,868			
合計							12,869,483				
事業の成果・実績	ハートフルルーム利用者数										
	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月			
	利用者数(人)	15	15	18	22	0	26	25			
		11月	12月	1月	2月	3月	合計(のべ人数)				
	28	28	25	27	28	257					
ハートフルルームでの学習及び生活を通して、社会的自立に向けた取組を行った。利用した生徒の中には教室で授業を受けることができたようになった生徒も見られた。											
令和4年度より市内全中学校に開設したことで、より多くの児童生徒の支援を行うことができるようになった。令和4年度に小学6年生でハートフルルームを利用した児童が、令和5年度に中学校に進学し、通常学級に登校できるようになったケースも見られる。											
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	B	総合評価	B			
備考・特記事項											

事業名		図書館管理費				担当部署	生涯学習課																																					
会計	一般会計	款	10教育費	項	04社会教育費	目	03図書館費	基本方針No.	3																																			
予算額(円)		121,502,000		前年度決算額(円)		38,340,500		基本的施策	3-1人生100年時代を見据えた生涯学習の実現																																			
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																																									
	120,828,401	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	0	一般財源	120,828,401																																	
		※その他内訳:																																										
根拠法令等	社会教育法																																											
事業の目的	<p>図書、記録その他必要な資料を収集、整理、保存し、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的として、荒尾市立図書館の基本方針の実現に努めていく。</p> <p>【荒尾市立図書館の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びを『つたえる』 利用者ニーズに沿った取組による多くの市民が学びを深め知を育むことができる図書館。 ・交流活動と『つながる』図書館 多世代の人々が気軽に交流・滞在でき、学校や地域、団体ともつながりもある、居心地のよい図書館 ・未来に『つづく』図書館 ユニバーサルデザインやバリアフリーへの対応及びデジタル化の積極的な推進によって、快適に利用できる図書館 																																											
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館の管理運営（H18から指定管理を導入） ・多世代のニーズに沿った取組による読書活動の推進 ・書店と連携したイベントによる利用の促進（有名作家の講演会、スタンプラリー等） ・市他部署との連携による本の特設コーナー（男女共同参画、世界遺産、人権問題、防災等） ・市他部署・市民団体等による展示（荒尾干潟、上下水道、文化遺産、炭鉱電車、海達公子等） ・学校との連携強化（市内小学校への並行図書の貸出等） ・電子書籍の利用促進（学校用タブレットの活用等） ・各種取組の情報発信（広報誌、HP、愛情ねっと、SNS、ラジオ、イベント等） 																																											
事業費内訳	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>図書館協議会委員報酬</td><td>24,500</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>46,684</td></tr> <tr><td>一般消耗品費(利用者カード、ICタグ)</td><td>968,000</td></tr> <tr><td>印刷製本費(パンフレット)</td><td>125,400</td></tr> <tr><td>旧図書館返却ボックス処分手数料</td><td>11,000</td></tr> <tr><td>グッドデザイン賞申請手数料</td><td>113,500</td></tr> <tr><td>市立図書館指定管理委託料</td><td>103,888,797</td></tr> <tr><td>図書館システム保守点検委託料</td><td>955,020</td></tr> <tr><td>新図書館オープニング式典委託料</td><td>495,000</td></tr> <tr><td>看板作成設置委託料(駐車場設置分)</td><td>117,700</td></tr> <tr><td>道路通行料</td><td>8,960</td></tr> <tr><td>電子書籍連携利用料</td><td>267,300</td></tr> <tr><td>OA機器借上料(図書館システム利用料)</td><td>1,683,000</td></tr> <tr><td>その他機器借上料</td><td>5,740,020</td></tr> <tr><td>図書館施設借上料</td><td>6,383,520</td></tr> <tr><td>合計</td><td>120,828,401</td></tr> </tbody> </table>										内訳	決算額(円)	図書館協議会委員報酬	24,500	旅費	46,684	一般消耗品費(利用者カード、ICタグ)	968,000	印刷製本費(パンフレット)	125,400	旧図書館返却ボックス処分手数料	11,000	グッドデザイン賞申請手数料	113,500	市立図書館指定管理委託料	103,888,797	図書館システム保守点検委託料	955,020	新図書館オープニング式典委託料	495,000	看板作成設置委託料(駐車場設置分)	117,700	道路通行料	8,960	電子書籍連携利用料	267,300	OA機器借上料(図書館システム利用料)	1,683,000	その他機器借上料	5,740,020	図書館施設借上料	6,383,520	合計	120,828,401
内訳	決算額(円)																																											
図書館協議会委員報酬	24,500																																											
旅費	46,684																																											
一般消耗品費(利用者カード、ICタグ)	968,000																																											
印刷製本費(パンフレット)	125,400																																											
旧図書館返却ボックス処分手数料	11,000																																											
グッドデザイン賞申請手数料	113,500																																											
市立図書館指定管理委託料	103,888,797																																											
図書館システム保守点検委託料	955,020																																											
新図書館オープニング式典委託料	495,000																																											
看板作成設置委託料(駐車場設置分)	117,700																																											
道路通行料	8,960																																											
電子書籍連携利用料	267,300																																											
OA機器借上料(図書館システム利用料)	1,683,000																																											
その他機器借上料	5,740,020																																											
図書館施設借上料	6,383,520																																											
合計	120,828,401																																											
事業の成果・実績	<p>令和4年4月1日のシティモールへの移転により約4倍の面積となり、バリアフリーに対応するなどの設備の拡充が図られたことや買い物・飲食などの複合的な利用による利便性が向上したことで、旧図書館と比べて来館者数及び貸出冊数ともに大きく増加している。中でも学習スペースの充実による学習目的の中高生の来館は急増しており、貸出においても小学生やその保護者層にあたる30～40歳代、中高生等の貸出も増加しており、旧図書館では課題となっていた若年層の利用増加にもつながっている。</p>																																											
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	B																																				
備考・特記事項																																												

事業名		あらお子どもスポーツ教室事業費					担当部署	生涯学習課			
会計	一般会計	款	10教育費	項	05保健体育費	目	01保健体育総務費	基本方針No.	3		
予算額(円)		4,257,000		前年度決算額(円)		2,045,981		基本的施策	3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実		
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)								
	3,193,854	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	135,500	一般財源	3,058,354
		※その他内訳： あらお放課後子どもスポーツ教室参加料									
根拠法令等	スポーツ基本法										
事業の目的	市内の小中学校において、子供たちを心豊かに健やかに育むために、安全・安心な活動拠点である学校施設で放課後の時間を利用し、楽しく安全に参加できる運動教室を実施する。児童が運動する機会を確保し、楽しみながら運動することを経験することで、体を動かす基本動作を身に付けるとともに、体力の向上を図りながらスポーツに対する興味や関心を高めていく。										
事業の内容	市内の小学4年生～6年生を対象とし、放課後の学校施設・時間を利用し、専門家が作成したカリキュラムを基に運動が苦手な児童でも楽しく安全に参加できる運動教室を実施する。										
事業費内訳	内訳								決算額(円)		
	報酬(会計年度任用職員人件費)								1,206,963		
	職員手当等(会計年度任用職員人件費)								238,179		
	共済費(会計年度任用職員人件費)								222,138		
	講師謝金(運動教室指導者)								496,500		
	旅費(会計年度任用職員人件費)								24,000		
	一般消耗品費								255,464		
	施設修繕費(その他)								30,100		
	役務費(保険料、手数料)								30,050		
	カリキュラム作成等委託料								498,960		
	備品購入費								191,500		
合計								3,193,854			
事業の成果・実績	<p>令和2年度及び令和3年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を断念していた。</p> <p>令和4年度については、万田小・八幡小・有明小・桜山小の4校で6月の開講を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、夏休み明けの9月から開講し、翌年3月までの7カ月間において実施した。</p> <p>年度途中で申し込まれた家庭もあり、最終的には万田小15名、八幡小7名、有明小2名、桜山小18名が教室に参加した。</p> <p>年間を通して、実施できたのは初めてであったため、試行錯誤しながらの取組であったが、実施前の体力テストに比べて、実施後の体力テストの数値が上がっており、子供たちの体力向上につながったものと考えられる。</p>										
評価	必要性	B	効率性	B	目標達成度	B	総合評価	B			
備考・特記事項											

事業名		荒尾運動公園施設長寿命化計画事業費					担当部署	生涯学習課	
会計	一般会計	款	10教育費	項	05保健体育費	目	02体育施設費	基本方針No.	3
予算額(円)		36,000,000		前年度決算額(円)		35,101,882		基本的施策	3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)						
	35,989,234		国庫支出金	県支出金	地方債	その他※	一般財源		
			17,868,500	0	15,855,000	0	2,265,734		
		※その他内訳:							
根拠法令等	荒尾運動公園施設長寿命化計画								
事業の目的	施設の種類に応じた日常点検や定期点検を実施し、利用者の安全と利便性を確保するように努めるとともに、執行予算の平準化を図りながら計画的な補修、改築及び更新を実施し、施設の延命化によるライフサイクルコストの縮減を図る。								
事業の内容	荒尾運動公園の都市公園施設について、安全性確保・機能保全・ライフサイクルコストの縮減・耐用年数の延伸等を図る観点から、既存ストックの長寿命化や適切な維持管理を行うために、平成29年度に策定した荒尾運動公園施設長寿命化計画及び再配置計画に基づき、事業を実施する。								
事業費内訳	内訳							決算額(円)	
	荒尾運動公園内施設照明設備更新工事							20,259,234	
	荒尾運動公園児童公園遊具改築工事							15,730,000	
	合計							35,989,234	
事業の成果・実績	運動公園施設内照明設備更新工事で多目的広場と市民プールの照明をLED化し、児童公園遊具更新工事で施設内遊具の半分の改修を行った。 今後も施設の長寿命化計画に基づき、老朽化施設を計画的かつ効率的に改修することにより、安全・安心な健康の増進・推進の場として、地域の生涯スポーツの推進に寄与し、公園施設の長寿命化を図っていく。								
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	B	
備考・特記事項									

事業名		地域と学校の連携・協働体制構築事業費				担当部署		生涯学習課																			
会計	一般会計	款	10教育費	項	04社会教育費	目	01社会教育総務費	基本方針No.	4																		
予算額(円)		1,337,000		前年度決算額(円)		530,025		基本的施策																			
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)																								
	809,062		国庫支出金	0	県支出金	502,000	地方債	0	その他※	0																	
			一般財源		307,062																						
※その他内訳:																											
根拠法令等		社会教育法、荒尾市地域学校協働本部運営委員会設置要綱、荒尾市地域学校協働活動推進員等設置要綱																									
事業の目的		地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもの成長を支えていくことで、地域の教育力の向上を目指すもの。																									
事業の内容		各中学校区に2人ずつ配置した地域学校協働活動推進員が中心となり、市内全13小中学校において、ボランティアによる授業補助(ゲストティーチャー、校外学習補助、家庭科及び農業体験)、学校環境の整備(除草作業及び図書室の蔵書の補修)、クラブ活動(絵工作及び茶道)指導などを行う。																									
事業費内訳		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内訳</th> <th>決算額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">講師謝金(地域学校協働活動推進員及び研修講師分)</td> <td>579,200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">旅費(研修交通費)</td> <td>75,542</td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般消耗品費</td> <td>72,590</td> </tr> <tr> <td colspan="2">保険料(無償ボランティア分)</td> <td>81,730</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>809,062</td> </tr> </tbody> </table>								内訳		決算額(円)	講師謝金(地域学校協働活動推進員及び研修講師分)		579,200	旅費(研修交通費)		75,542	一般消耗品費		72,590	保険料(無償ボランティア分)		81,730	合計		809,062
内訳		決算額(円)																									
講師謝金(地域学校協働活動推進員及び研修講師分)		579,200																									
旅費(研修交通費)		75,542																									
一般消耗品費		72,590																									
保険料(無償ボランティア分)		81,730																									
合計		809,062																									
事業の成果・実績		<p>地域学校協働活動推進員が発掘した地域ボランティアの延べ人数は、6,500人程度を維持している状態である。また、学校でボランティア人材のリスト等を保管している学校もあり、推進員へ依頼を行わず、直接学校がボランティアへ依頼をしている学校も増えている。</p> <p>地域学校協働活動推進員の発掘による地域ボランティア延べ人数 令和3年度 6,624人 令和4年度 6,525人 各学校における活動例 登下校見守り、丸付けボランティア、読み聞かせ、校外学習補助、職業講話等</p>																									
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	A																			
備考・特記事項																											

事業名		夏休み子ども学び塾事業費					担当部署	生涯学習課			
会計	一般会計	款	10教育費	項	04社会教育費	目	01社会教育総務費	基本方針No.	4		
予算額(円)		225,000		前年度決算額(円)		13,935		基本的施策	4-4家庭、地域、学校の連携・協働の推進		
決算額(円)	事業費		財源内訳(円)								
	113,156	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他※	23,000	一般財源	90,156
		※その他内訳：夏休み子ども学び塾参加料									
根拠法令等	特になし										
事業の目的	夏休みの宿題などを行う自学自習の時間を設けて、長期休暇の中たるみを防ぎ、学習の定着を図る。また、郷土の歴史や文化、自然などの体験活動も行うことで、子どもたちの郷土への愛着や地域に貢献しようとする心も育ませる。										
事業の内容	市内の小学4～6年生の児童を対象に学習の定着、子どもたちの郷土愛の醸成及び地域との交流の場づくりとして夏休み子ども学び塾を開催する。午前中に宿題などの自主学習を行い、午後は荒尾の歴史や文化、食、自然などを学ぶ体験活動を行う。										
事業費内訳	内訳							決算額(円)			
	講師謝金							81,000			
	旅費							2,976			
	一般消耗品費							3,542			
	食糧費							783			
	役務費(傷害保険料)							1,855			
	夏休み子ども学び塾体験料負担金							23,000			
	合計							113,156			
事業の成果・実績	<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止を行いつつ、8月の夏休み期間中に実施した(23人参加)。</p> <p>1日目は、梨園に行き、梨についての話を園主から教えてもらった。また講師による水や海についての学習も行った。2日目は、市立図書館で特設コーナー展示として、押し本のおすすめポップの作成や荒尾郷土カルタで荒尾について学び、参加者との交流も深めた。荒尾ならではの体験活動により、子どもたちが荒尾の魅力に関心を持ち、参加者のほとんどがまた参加したいとの回答だった。</p> <p>参加者アンケートより 来年も参加したいと答えた子どもたちの割合 90%</p>										
評価	必要性	A	効率性	A	目標達成度	A	総合評価	B			
備考・特記事項											

令和4年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：宮辺 博幸

事業名	概 評
1 語学指導外国青年招致事業費	今年度は5人体制にもどり、指導日数の増加とともに英語スピーチコンテスト、英検受験に向けたきめ細やかな指導、教員への発音指導による授業力の強化など、英語教育の充実に寄与している。授業外での児童、生徒とのふれあいの機会を増やし、外国語への興味を引き出していくことで、英語教育の更なる充実に努めていくことを期待する。
2 小学校・中学校ICT環境整備事業費	整備されたICT環境の活用の充実のため、今年度は、10学級以上の学校にインターネットローカルブレイクアウト方式を整備し、活用推進に繋げている。今後も、ICT支援員の活用、整備されたICT機器の維持、管理を適切に行いながら、ICTによる教育の充実に努められたい。
3 荒尾市就学援助事業費	経済的な理由により、就学困難と認められる児童、生徒の支援に大いに役立っている。事務の効率化を図りながらスムーズに援助できるよう努めていただきたい。
4 学校給食費無償化事業費	本市の将来を担う子どもたちを、市民全体で支えていくことで、子育て世代の経済的負担の軽減となっている。安心して子育てできるまちづくりに繋げていくためにも、今後も継続していただきたい。
5 小学校・中学校施設長寿命化計画策定事業費	今回の、国の「学校施設バリアフリー化推進指針」に基づき、学校施設バリアフリー化計画を策定し、小・中学校施設長寿命化計画に盛り込み、さらに長寿命化計画の見直しも行われている。各学校施設の老朽化は著しいことから、新たに策定された計画に基づき、学校施設の維持管理に努められたい。
6 小学校・中学校施設長寿命化改修事業費	小学校・中学校施設長寿命化計画に基づき、優先順位の高いものから計画的に補修改修がなされている。生徒の学習意欲向上のためにも、今後も快適性・利便性・安全性を重視しながら、継続的かつ計画的な修繕、改修に努められたい。
7 給食センター整備推進室事業費	最大の課題であった給食センターの建替整備工事が完成し、9月より供用が開始されたことで、児童生徒に、より安心・安全でおいしい学校給食が安定的に提供されていくことを期待する。
8 新型コロナウイルス対策事業費（教育）	新型コロナ感染拡大防止に対応するため、各小中学校の要望に沿った備品、消耗品等の早急な購入、設置がなされている。また、教育活動においては「新しい生活様式」に基づき、適切な指導の実施により、各学校への感染拡大防止に取り組み、教育活動が円滑に行われていることから、今後も継続して実施していただきたい。
9 授業改善アドバイザー事業費	授業改善アドバイザーの指導、助言により「進化型あらおベーシック」が推進されている。教職員の共通理解が深まり、全校で授業改善の取り組みがなされ、子どもたちの学力向上や授業での理解力が増してきている。今後も「進化型あらおベーシック」の推進により、更なる授業力の向上に努められたい。
10 英語教育充実事業費	ALTの活用や放課後の学習会実施などの取り組みにより、生徒たちに学力に応じた実用英語技能検定受験に取り組む体制を構築したことで、生徒たちの英語学習意欲の向上がみられ、すべての学年で9割以上が受験している。今後も、英語力の更なる向上のために事業を継続して実施していただきたい。

令和4年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：宮辺 博幸

	事業名	概評
11	子ども未来文庫整備事業費（小学校・中学校）	子ども未来基金の活用により、各学校が独自に選定した図書、新聞を購入することで、学校図書館の充実、NIEの推進を図っていくことは、児童、生徒の読書への意欲、さらには学習意欲へ繋がっていくものと期待する。
12	特別支援教育支援員事業費	法改正に伴い、特別に支援を必要とする児童生徒への適切な教育を行うことが位置付けられ、特別支援学級の増加とともに、特別支援員の必要性は大きくなっている。研修会の実施等により、支援員の役割、障がいへの理解も深まってきていることから、予算確保により支援員の更なる増員配置に努められ、障がいのある児童生徒への教育の充実を図っていただきたい。
13	心の教室事業費	様々な理由や要因による不登校などの生徒に対し、心の教室相談員の活動が重要視されている。様々な角度から生徒に支援を行うとともに、学校職員、保護者、さらには関係機関との連携を深め、1人でも多くの生徒の学校復帰に繋げていただきたい。
14	小岱教室事業費	当教室での学習を通して、学校への部分登校、学校行事への参加ができるようになった児童生徒が出てきている。今後も、地道な活動の中から不登校児童の解消に取り組んでいただきたい。
15	中学校フリースクール事業費	年々増加し、各学校の課題となっている不登校児童生徒の対策として、第三中学校に「ハートフルルーム」が設置され、教室で授業を受けることができる生徒が見られるようになってきている。今年度からは、市内全中学校に設置されたことで、より多くの児童生徒に支援できる体制となっている。各学校での取組を十分検証され、学校復帰できる児童生徒が一人でも増えていくよう努められたい。
16	図書館管理費	指定管理者の導入により、図書貸出しやレファレンスなどのサービスは向上し、図書館利用推進のための様々な取り組みがなされている。また、図書館の移転により、設備は充実し、利便性が高いことから、来館者数、貸出冊数ともに大幅に増えている。さらに、新たな取組み等により図書館利用推進に努められたい。
17	あらお子どもスポーツ教室事業費	子どもたちに運動の機会を提供していくことで、スポーツに対する興味や関心を高め、体力の維持向上に繋げていくことは大切なことである。現在実施している学校での参加者の増加に努められるとともに、1校でも多くの学校で実施出来るようになっていくことを期待する。
18	荒尾市運動公園施設長寿命化計画事業費	策定された長寿命化計画に基づき、予防保全的な維持管理を行うことで、安全性の確保に努められている。競技スポーツ、生涯スポーツの拠点施設であることから、今後とも多くの利用者が、安心・安全に使用できるよう、建物の機能や設備の維持管理に努められたい。
19	地域と学校の連携・協働体制構築事業費	それぞれの学校とともに、地域学校協働活動推進員を中心として、地域ボランティアの確保に努められ、それぞれの学校に応じた活動が行われている。今後とも、人材の発掘、確保を図りながら、学校と地域の協働により更なる教育力の向上に努められたい。
20	夏休み子ども学び塾事業費	夏休み期間中を利用し、子どもたちに荒尾について学ぶ機会を与え、事業を通して子どもたちが交流を深めていくことは有意義なことである。数多くの子どもたちが参加できるよう、事業の拡大を検討していただきたい。

令和4年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：日比 眞一

事業名	概 評
1 語学指導外国青年招致事業費	A L T配置の増加により、ヒアリング力等の向上に向けて取り組んでいる。英語スピーチコンテストや英検受験等のイベントを活用して、児童生徒の学習意欲を向上させている。小学校の英語教育の充実も進められている。今後は、児童生徒が英語を学んだ先にある、荒尾市の国際化に向けてのロードマップが見えてくることに期待する。
2 小学校・中学校ICT環境整備事業費	小中学校を対象にインターネットローカルブレイクアウト方式を整備するなど、帯域拡充が進めている。児童生徒及び教職員が活用のしやすい、高度なICTツールを活用できる授業環境が拡充している。今後は、ソサエティ5.0等も念頭に置きながら、情報リテラシーの生み出す価値について感得できる、学びの環境整備にも期待する。
3 荒尾市就学援助事業費	経済的理由により、就学が困難である児童生徒の保護者に対して援助を行っている。義務教育の円滑な実施のための取り組みになっている。希望者には、入学準備金として、新入学児童生徒学用品費の支給を3月に前倒し支給する。状況に応じた対応を拡充して進めている。今後は、各機関との連携なども視野に入れながら、インボランタリー化している保護者等へのアプローチにも期待する。
4 学校給食費無償化事業費	子育て世帯の経済的負担の軽減となる。子育て支援につながる事業である。広くは少子化対策にもつながる事業ともいえる。食育の機会ともなっている。食の大切さ、食に関する正しい知識と習慣を再認識する取り組みとなっている。今後は、食育にも関連する、欠食児童の問題についての認識も深化に期待する。
5 小学校・中学校施設長寿命化計画策定事業費	施設の老朽化状況を考慮して長寿命化改修を進めている。さらに、荒尾市学校施設等長寿命化計画と、学校施設に関する市のバリアフリー化計画を一体的なものとして進めている。学校施設等の維持管理の適正化・効率化を推進している。今後は、学校のバリアフリー化により示される、バルネラビリティへの合理的な配慮について、教職員や児童生徒が感得できる施設づくりも期待する。
6 小学校・中学校施設長寿命化改修事業費	学校施設の長寿命化によって、施設改修のコスト縮減や予算の平準化を進めている。荒尾市内の小中学校について、構造躯体の長寿命化、屋根や外壁等の外装材の改修、内部や設備の改修等を進めている。安全性確保、機能向上が図られている。今後は、改修によって学習面や安全面等の環境が整備されて、教育環境の質的改善が進むことも期待する。
7 給食センター整備推進室事業費	基本構想・基本計画を着実に実行し、新学校給食センターは令和4年9月に供用を開始した。学校給食センターは、成長期の子供たちの心身の発達を養う上で重要な役割を担っている。今後は、食育に関する教育環境の整備にも期待する。教職員が、児童生徒がアレルギー症状を示した場合等の対応について学ぶ環境の整備等にも期待する。
8 新型コロナウイルス対策事業費（教育）	新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。必要な取り組みの確認ができています。新型コロナウイルス感染症の簡易検査キットを配備するなど、感染対策を講じながら教育活動ができています。今後は、5類に移行した後の教育活動の展開について検討を進めることに期待する。また、コロナ差別のような事象が再び起きないように、感染症への正しい知識の習得ができる機会の創出にも期待する。
9 授業改善アドバイザー事業費	授業改善アドバイザー派遣指導の取り組みにより、進化型あらおベーシックの進展が見られる。小学校は各種学力テストの正答率において熊本県や全国平均を上回る。中学校は、県平均との差が縮まる傾向にある。また、アンケートでは「学校が楽しい」「授業が分かる」の割合が90%前後と高い。今後は、学力の二極化が見られることについて、その分析を進めることに期待する。
10 英語教育充実事業費	英語教育に関わる小中学校の教員の研修が進んでいる。授業研究会や授業における成果、課題の検討を行い、英語教育のスキルアップが図られている。小中学校の連携を図り、系統的な学習環境の整備を拡充している。今後は、英語を学んだ先にある、グローバル社会で活躍するスキルの育成も視野に入れながら事業が進むことも期待する。

令和4年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：日比 真一

	事業名	概評
11	子ども未来文庫整備事業費（小学校・中学校）	学校図書の実充を図り、図書室の利用と読書活動を推進している。学力向上に向けて、NIEに取り組んでいる。コーナーを設置して、荒尾子ども未来基金の意義を周知し、学校図書の実充及び児童生徒の読書意欲の向上を図る。今後は、読書によって得た知識をもって、どのように社会を理解するのか。また、課題解決に取り組むのかを感得することができる活動の検討にも期待する。
12	特別支援教育支援員事業費	支援が必要な児童生徒への対応についての研修会を実施している。障がいへの理解や支援員の役割についての理解を深めている。特別支援学級に通う児童生徒への支援はもとより、普通学級に在籍している、発達障がいを持つ児童生徒の学習支援を行うことで、落ち着いた学習環境づくりに貢献できた。今後は、チーム学校の観点からも、医療や福祉との連携や協働にも期待する。
13	心の教室事業費	関係機関と連携を図り、不登校対策における学校の中核として取り組んでいる。心の教室相談員と教職員で情報共有を行い、悩む生徒の早期発見ができた。状況によっては、福祉分野の支援につなげることができた。今後は、関係する多職種・多機関との連携がさらにスムーズに行われるために、心の教室相談員とスクールソーシャルワーカーのさらなる連携や協働にも期待する。
14	小袋教室事業費	小袋教室での学習を通じて、部分登校や学校行事に参加できるようになった生徒も見られた。学校と家庭との連携を深めて、不登校解消に大きな役割を果たしている。今後は、家庭との連携がさらにスムーズに行われるために、不登校の一因ともなる、生活課題に寄り添うことができるスクールソーシャルワーカーへの理解がさらに進むことも期待する。
15	中学校フリースクール事業費	ハートフルルームでの学習及び生活を通して、社会的自立に向けた取り組んでいる。教室で授業を受けることができるようになった生徒も見られた。令和4年度より市内全中学校に開設したことで、より多くの児童生徒の支援を行っている。今後は、不登校の一因ともなる、生活課題に寄り添うことができる、スクールソーシャルワーカーへの理解や活用がさらに進むことも期待する。
16	図書館管理費	シティモールへの移転により約4倍の面積となり、バリアフリーに対応する設備も拡充した。買い物・飲食などの複合的な利用による利便性が向上した。来館者数及び貸出冊数ともに増加している。学習スペースの実充により、中高生の来館は急増している。若年層の利用増加にもつながっている。今後は、図書館を活用した、地域の知の拠点づくりも視野に入れた運営の検討にも期待する。
17	あらお子どもスポーツ教室事業費	運動が苦手な児童も、楽しく安全に参加できる運動教室を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年間を通して実施できたのは初めてであった。試行錯誤の取り組みではあったが、実施前の体力テストに比べて、実施後は数値が上がり、子供たちの体力向上につながったものと考えられる。今後は、スポーツを通じての、地域創生やまちづくりも視野に入れた事業の検討にも期待する。
18	荒尾市運動公園施設長寿命化計画事業費	施設の長寿命化計画に基づき、老朽化施設を計画的かつ効率的な改修が進められている。安全・安心な健康の増進・推進の場として、地域の生涯スポーツの推進に寄与している。今後は、超高齢社会が継続する中で、スポーツを通じての健康寿命の延伸や、スポーツを通じての、地域創生やまちづくりも視野に入れた事業の検討にも期待する。
19	地域と学校の連携・協働体制構築事業費	地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもの成長を支えることを目指している。地域の教育力の向上を図る。地域学校協働活動推進員が発掘した地域ボランティアの延べ人数は、6,500人程度になる。今後は、チーム学校の観点からも、学校が抱える課題は、地域の課題でもあることを、お互いに認識できる体制の検討にも期待する。
20	夏休み子ども学び塾事業費	夏休み子ども学び塾を開催した。夏休みの中だるみを防ぎ、学習の定着を図った。郷土の歴史や文化、自然に触れる体験活動を行うことで、郷土への愛着や地域に貢献する心を育む。参加者アンケートでは、来年も参加したいという回答がほとんどであった。今後は、何らかの事情で、勉強が遅れてしまった児童や、不登校や引きこもりの児童への支援も視野に入れた、学び塾の検討にも期待する。